

Special オンライン対談



経済産業省 商務・サービス審議官 藤木 俊光氏



日本国土開発 代表取締役社長 朝倉 健夫氏

自らCHOに就任
トップダウンで推進

従業員の健康維持を
注目集める健康経営

働き方改革が注目を集める中、従業員の健康維持を目的に様々な施策を講じる健康経営を取り入れる企業が増えている。日本国土開発はこのたび経済産業省と東京証券取引所の「健康経営銘柄2020」と、日本健康会議の「健康経営優良法人2020（大規模法人部門IIホワイト500）」の認定を受けた。両制度の理念や日本国土開発が取り組む様々な施策について、同社の朝倉健夫社長と経済産業省商務・サービス審議官の藤木俊光氏が対談した。

全社挙げて健診を推奨
再受診率92%超に上昇

朝倉 現在も感染拡大が続く新型コロナウイルスにより、日本経済・社会は甚大な影響を受けていますが、当社はいち早く新型コロナウイルス感染症対策本部を設置し、様々な施策を講じています。既に昨年の段階で全社員在宅勤務が可能で、テレワーク環境を整えていたため、テレワークをスムーズに実施できました。ただ、インフラ整備を手がける当社は建設現場を完全に止めるわけにはいきませんが、従業員の安全と健康を第一に考えながら、発注者の意向に個別に対応してい

るのが現状です。

藤木 日ごろから健康経営を意識されているからこそ迅速な対応ができたのではないかと思います。そもそも健康経営とは、従業員の健康の維持・増進の取り組みを経営的視点から考え、戦略的に実践すること。企業が従業員の健康づくりに投資することで、生産性の向上や組織が活性化すること、その結果、企業価値が向上することともに、社会課題の解決につながっていくものだと考えています。

経済産業省は2014年度に企業の「健康経営」の取り組みを促進する目的で「健康経営銘柄」を創設しました。16年度には「健康経営優良法人」認定制度も創設しました。今年

り組み、再受診率は直近1年間で92.5%に達しています。このほかにも全国の建設現場の社員も継続的に特定保健指導を受けやすくなるため、初回面談以降はアプリや電話の利用や健康保険組合主催のウォーキング大会といったイベントの開催、社員の運動サークル運営に対する補助など、様々な支援を行っています。

持続可能な社会を目指す
健康経営を海外展開

藤木 朝倉社長自身がCHOとなつて健康経営推進体制を担い、さらには自社健康も巻き込んだ取り組みをしていることが素晴らしい。健康経営が定着するためには従業員が自らの行動を変容する必要があります。「健康経営サポーター」の取り組みは、そのきっかけになります。

朝倉 国内の建設業界は人手不足が深刻化しています。当社は働き方の多様な化や労働時間の削減、建設現場の週休2日の実現などを通じて働き方改革と健康経営のダブル変革を加速し、持続的成長を目指していきます。

また、当社のオープンインベション拠点「つくば未来センター」では、水問題など持続可能な社会を実現するイノベーションの創出にも日々取り組んでいます。これまでの日本の建設業は安全管理や技術を海外に移転してきましたが、これから当社は健康経営も日本独自のノウハウとして世界に伝えていきたいと考えています。



つくば未来センター

健康経営®は、NPO法人健康経営研究会の登録商標です

